

平成20年9月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

9月11日09時20分に十勝沖でM7.1の地震が発生し、北海道^{にいかつぶちょう}新冠町などで最大震度5弱を観測しました。この地震により、北海道、青森県及び岩手県の太平洋沿岸で高いところで18cmの津波を観測しました。国土地理院のGPS観測結果では、この地震に伴う小さな地殻変動が観測されています。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は131回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は79回でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

[火山活動]

雌阿寒岳では、26日以降、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加しました。29日14時11分頃には振幅のやや大きな火山性微動が発生し、直後から火山性地震が多発したことから、火山活動が高まったと判断し、29日に火口周辺警報を発表して、噴火予報(平常)から火口周辺警報(火口周辺危険)に引き上げました。

口永良部島では、火山性地震が増加したことから、火山活動が高まったと判断し、4日に火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げました。

浅間山では、火山性地震がやや多いことなどから、依然として火山活動が高まった状態が続いており、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

霧島山(新燃岳)では、火山性地震がやや多い状態が続いており、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

桜島では、昭和火口で7日に噴火が1回発生しました。南岳山頂火口では、ごく小規模な噴火が時々発生する程度でした。桜島では、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いており、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成20年8月～9月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2008/goudou1007.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成20年9月号(平成20年10月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成20年10月の地震活動及び火山活動については、平成20年11月7日に発表の予定です。